

---

害虫を寄せ付けない画期的な方法！  
数多くの建設現場で害虫対策として使われる  
「シーリング剤」が話題

---



新たな「マンション」「戸建て」「店舗」「工場」を建設する際、施主やオーナーから、“**害虫対策**”に関して注文されるケースがある。

一般住宅であればさほど問題ではないかもしれないが、これが飲食店や食品工場などともなれば、話は別だろう。

特に2021年の6月までに「**HACCP (ハサップ) ※1**」を導入する義務がある事業者などに至っては、食品衛生を徹底するうえで必要不可欠な対策に違いない。

※1 HACCP（ハサップ）：食品を製造する際に安全を確保するための管理手法のこと



ただ虫が侵入しやすい隙間をシーリングするなどしても、どうしても限度がある。

そのためこれまで施工の段階でできる“**害虫対策**”はほとんどなく、発生してから駆除作業を行うことが一般的だった。

そこで現在、害虫をそもそも寄せ付けない「**画期的なシーリング剤**」が注目を浴びていることをご存知だろうか？

それが「**ガードシーラント (GUARD SEALANT640)**」だ。



「ガードシーラント」は、配管やスリーブ廻りの隙間・窓枠からの不快害虫進入を食い止める画期的な「変成シリコン剤」だ。

通常、「変成シリコン剤」などを使い、隙間をシーリングすることで、物理的に室内への侵入を防ぐ方法が一般的だ。

ただ、わずかでも隙間があれば容易に侵入を許してしまうため、シーリングのみで害虫対策を施すのは非常に困難とされてきた。

しかし「ガードシーラント」を使えば、歩行害虫をそもそも“寄せ付けない”効果を発揮するという。



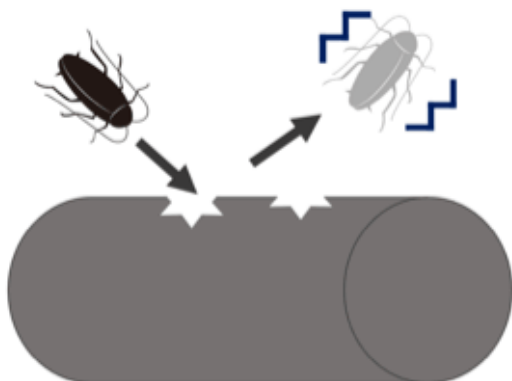
注目すべきは「殺虫効果」ではなく、虫を寄せつけない「忌避（きひ）効果」に特化している点だ。

これまで海外生産のシーリング剤は、害虫がそれをかじることで「殺虫効果」を与えるものがほとんどだった。

ただそもそも「シーリング剤」をかじられるというのは、本来の目的と相反する。

そこで「ガードシーラント」は、「殺虫効果」ではなく、そもそも“寄せ付けない”ための「忌避効果」を目的に考案されているのだ。

## 従来のシーリング剤



### △ 殺虫効果を重視

シーリング剤をかじられてしまうので本来の目的とは相反する

## ガードシーラント



忌避成分

### ◎ 忌避効果を重視

そもそも害虫を寄せ付けず触れられた場合も薬剤効果で忌避させる

「ガードシーラント」はシーリングの表面部分に常に「忌避成分」が存在する。

これにより、そもそも害虫を寄せ付けない効果があるだけでなく、万が一触れられた場合でも、薬剤が害虫のカラダに付着し、薬剤効果で忌避させる。

しかも、害虫が触れて薬剤が減ってしまった表面部分には、内部から新たな薬剤が滲み出てくる構造だ。

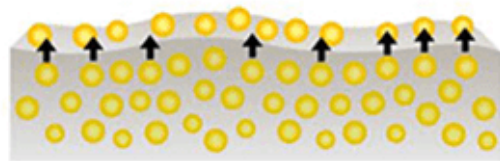
これにより常に表面には「忌避効果」のある薬剤がキープされる仕組みになっているのだ。

## 薬剤残存率は「約95%」 10年相当の残存性！

もし害虫が触れて  
しまったとしても・・・



内部から薬剤が表面に  
染み出るので、  
常に微量の薬剤が存在  
する。



「配管貫通部廻り」や「窓枠」「自動扉廻り」など、不快害虫の進入経路である様々な箇所に対応可能であり、**持続性も非常に高い。**

実際にチャバネゴキブリ10匹を「ガードシーラント」の入った試験管にいれ、仰転率が「50%」になるまでの時間を計測した結果、

**通常時でも「15分」で達成し、なんと8週間後であっても「16分」で達成する**という結果が得られている。

このように「ガードシーラント」に含まれる薬剤は、自然に**揮発・蒸発**することがないため「**約10年相当**」の持続性を期待できるという。

一般的なシーリング剤でさえ、およそ「10年」程度で打ち替え工事が行われることが一般的である現実を考えると、その間はしっかりと効果が持続することになる。



しかも、忌避効果のために配合されている成分である「エトフェンプロックス」は、しっかりと安全性も確保されている。

コーヒーよりも「約14倍」、塩より「約85倍」人体への影響が低く安全という結果が明らかになっているのだ。

※財団法人日本中毒情報センター調べ

## 体重15 kgの子供が「1度に摂取した際の中毒性」



もちろん害虫対策としてだけではなく、速乾性「**変成シリコン剤**」として、通常のシーリング剤同様の使用が可能だ。

これまでコーキング目的としてだけに使用されていた通常のシーリング材を「ガードシーラント」に変えるだけで害虫対策も同時に行えるため、取り入れる施工業者が続々と増えているのだ。

実際の施工現場では、

- ・ 飲食店の自動扉、出入口ドア廻りのシール
- ・ 食品工場・精密機器工場・スーパーなどの窓枠やシャッター廻りのシーリング
- ・ 住宅基礎部と配管の隙間のシーリング
- ・ エアコン配管廻りやカラン廻りのシーリング
- ・ 排水溝や排水マス廻りのシーリング

など、幅広く利用されているようだ。





いかがだったでしょうか？

このように意匠目的の仕上げ材として利用されてきたシーリング剤に「忌避効果」を施したことで、施工段階で気軽に害虫対策が行えるようになったのだ。

「HACCP（ハサップ）」を導入する義務がある事業者だけでなく、今後は一般住居なども含め、当たり前のように利用される日が近いかもしれない。

公式HPには、さらに詳しい製品情報が記載されている。

少しでも気になった方は、この機会に是非詳細を覗いてみてほしい。

▼[詳細はこちら](#)



**ガードシーラント  
GUARD SEALANT 640**

安全な薬剤使用    持続性が高い    様々な箇所に  
対応可能

**“忌避効果”で害虫侵入を防ぐ  
寄せ付けないシーリング剤**

**ガードシーラント  
GUARD SEALANT 640**

**詳細はこちら** 